

改善報告書

令和6年7月29日

1. 大学名：福山平成大学

2. 認証評価実施年度：令和3年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○福祉健康学部福祉学科において、改善策を検討し実践しているが、収容定員充足率が0.7倍未満であるため、入学者確保について改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

本学は、令和3(2021)年度の日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、基準2-1において、収容定員充足率が0.7倍未満であるため「改善を要する点」として指摘を受けている。福祉健康学部福祉学科の過去5年間の収容定員充足率は、【資料2-1-01】に示すように0.4前後で低迷しており、入学定員充足率において0.4前後であった。このことについて、本改善報告書では、収容定員充足率改善にむけた取り組みと現況について報告する。

福祉学科では、令和3(2021)年度からカリキュラムを改定し、令和6(2024)年度完成年度を迎えるが、より一層の教育の質の向上を目指して、令和7(2025)年度から新カリキュラムとして、特に、①国際福祉の学びの拡充、②ICTに強い福祉人材の育成、③地域貢献・社会課題の解決につながる高度専門科目【資料2-1-02】の充実の3点を盛り込む。①については令和6(2024)年に「2024年度国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」の採択が決定し、同年11月にタイから9名の大学生・1名の教員が来学する予定である。この事業は学生も参加するため、国際福祉について考える機会となる。②については令和6(2024)年7月にその嚆矢ともいえる取組みを福祉用具業者の協力を得て1年生を対象に展開し、新科目の教育内容の検討を進めることができた【資料2-1-03】。

また、幅広く福祉学科に入学者を確保するために、令和6(2024)年度入学者選抜試験から総合選抜(一般)にオープンキャンパス型【資料2-1-04】を取り入れた。さらに近年、福祉施設において、外国人による介護者・介助者のニーズが高くなっていることから、本学でも令和7(2025)年度から外国人留学生を対象に入学者選抜試験【資料2-1-05】を実施し、福祉施設の職員として入職できるよう福祉の知識・技術を教育していく。

次に、広報活動としては、ウェブページによる情報発信を強化するとともに教員による高校訪問【資料2-1-06】によって、進路指導担当の教員に説明するほか、高校へ出向いて出張講義【資料2-1-07】を行い、本福祉学科の教員や学生が高校生と直接ふれあう機会をつくり、福祉課題の多様性や、社会福祉士や介護福祉士の国家試験合格率【資料2-1-08】が高い大学で福祉を学ぶ魅力を感じてもらい、入学定員の充足に努めている。特に、社会福祉士や介護福祉士の国家試験への対策として福祉研究(A~D)も設け、国家試験に合格したい学生を

支える科目を用意しており、近年、本学の国家試験合格率は高く、介護福祉士国家試験は7年連続100%（大学生受験者誕生から毎年）、社会福祉士も60～70%の合格率と広島県内私立大学、西日本の私立大学の中でも上位に位置している。また学生の就職先確保と地域の福祉人材養成をねらいとして福祉学科の教員が福祉施設職員向けに研修を行う事業を令和5(2023)年度から始めた【資料2-1-09】。

さらに、収容定員充足率の改善のために、福祉学科の魅力を受験者に伝えるべく、次の施策にも取り組んでいる。

【認知症カフェ】

地域とのつながりを生かした活動を展開するため、平成28(2016)年から大学のある福山市御幸町の住民や近隣の福祉専門職と協力して、平大認知症カフェ（愛称、みゆきよりみちかふえ）を開催している。認知症カフェを始めた大学として、福祉学科の取り組みは全国で2例目である。みゆきよりみちかふえは大学を拠点としていることから、毎回認知症にかかる「学びの時間」とお茶を飲み、話し合う「カフェの時間」の2つのプログラムを設けている。新型コロナウイルスが蔓延するまでは、認知症当事者やその家族、地域住民、学生が大学に集い、2か月に一度行ってきた。コロナ禍以降は、オンライン（Zoom）を活用したことで、全国から認知症当事者や介護する家族、医師等を講師として招くことができた。またこの取り組みを知った大阪や長崎など全国各地の方もオンラインで参加できるようになり、多い時には150名を超える参加者を得ている。現在は対面とオンラインのハイブリッド型で展開している【資料2-1-10】。

【地域福祉課題解決演習】

令和3(2021)年度から府中市上下町や島根県邑南町といった高齢化や人口減少が進んだ地域の社会福祉協議会の協力を得て、地域福祉課題解決演習に取り組んでいる。この演習では、事前学習を積んだ後、学生と教員が現地を訪れ、福祉や医療の専門職や地域活動を展開する住民から話を聞き、地域課題の把握とその解決の検討を試みる取り組みである。いずれの地域も福祉課題はあるものの、専門職や地域住民との連携に優れ、地域福祉実践が先駆的という特徴がある。このため、学生が地域で学ぶ体験としては資格取得のための実習と並んで、貴重な機会となっている【資料2-1-11】。

【ピアサポーターとの交流会（ピア会）】

福祉学科ではそれまでには見られなかった学生の退学や休学がコロナ禍に生じたことから、令和4(2022)年から学生の退学・孤立を予防するために「一人暮らし学生交流会」を定期的に関わってきた。令和6(2024)年からは、1年生の孤立を防ぐことをねらいとするピアサポーターとの交流会（略称、ピア会）に変え取り組んだ。運営・企画を学生が担い、地域の協力を得て食料配布を行うことで学生が参加しやすいよう工夫をし、1年生の悩みに上級生のピアサポーターが応じる取り組みを行っている【資料2-1-12】。

このような取り組みが、収容定員充足率の改善につながるが見込まれる。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

【資料2-1-01】過去5年間の収容定員充足率及び入学定員充足率推移表

【資料2-1-02】令和7年度新カリキュラム

【資料2-1-03】学科ニュース【福祉学科】すごい!! シン・kaigo

福山平成大学

- 【資料 2-1-04】 入学者選抜試験総合選抜（一般）オープンキャンパス型
- 【資料 2-1-05】 外国人留学生入学者選抜試験募集要項
- 【資料 2-1-06】 教員による高校訪問一覧
- 【資料 2-1-07】 高校への出張講義一覧
- 【資料 2-1-08】 社会福祉士・介護福祉士の国家試験合格率の推移
- 【資料 2-1-09】 施設職員向け研修事業
- 【資料 2-1-10】 認知症カフェ
- 【資料 2-1-11】 地域課題解決演習の取組み
- 【資料 2-1-12】 学科ニュース【福祉学科】ピアサポーターとの交流会「ピア会」を開催しました!!